

'93 広報

玉造

2月号 No.391

『霞ヶ浦ふれあいランド』の入館者が、二月七日に二十万人を突破しました。

二十万人達成を記念して「水の科学館」玄関前でセレモニーが行われ、くす玉を割ると花火も打ち上げられ、達成を祝いました。

二十万人目の入館者は、土浦市大岩田小学校二年の浦井美幸ちゃん（八歳）。美幸ちゃんは、両親の康行さん優子さんと、いとこの小原弘友紀ちゃん（四歳）ら親類七人でふれあいランドを訪れたもの。母親の優子さんは「次々にクイズを解いていくゲームがあるそう、こどもが楽しみにしているみたいです。もち論タワーにも上がってみたいですが、水の体重計はパスですね」と語ってくれました。

また、二月七日にちなんだ二十万七人目に入館した水戸市平須賀の会社員根本好則さん（二二歳）にも記念品が贈られました。「会社の人に聞いてやってきたが、ほんとに運がよかった!」と同僚の方とにごに顔でした。

祝
20万人達成記念
霞ヶ浦ふれあいランド

『霞ヶ浦ふれあいランド』の入館者
が20万人を突破



ときめくためには、
「ほめ言葉」「感謝の
言葉」「愛の言葉」の3
つがポイントでそれ
が若さの秘けつ
ですネ!

特別講演で『いつも何かにときめいて
いよう』を演題にユーモラスな語り口
で聴衆を魅了した女優の藤田弓子さん

家族的な歌を発表す
る「コーラス教室」



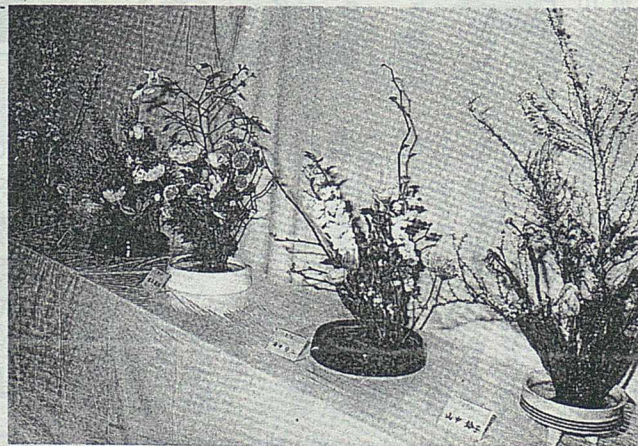
流ちょうな話に
耳を傾ける皆さん



「親子の広場」は木目込教室が行われ親子で人形づくりに挑戦



美の世界がひろがる「生花展」



「カラオケ教室発表会」で自慢の
ノドを披露する教室生



第12回 公民館

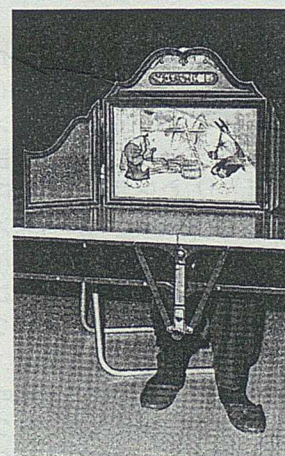
1月23日～



まつり

1月31日

生活大学では牛乳パックを利用した「紙すき体験」を



「かさじぞう」と「一寸ぼうし」

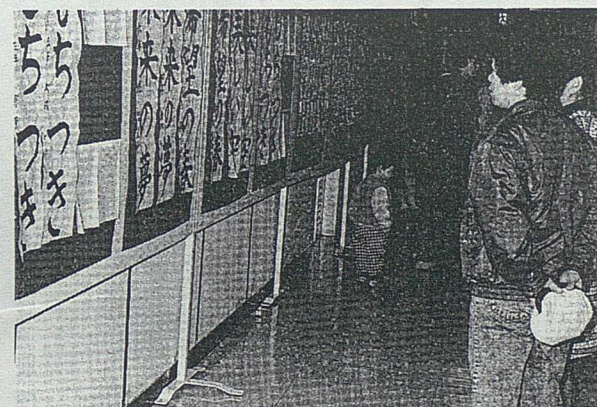
「ほたる灯」会員による「手話で語る昔話」



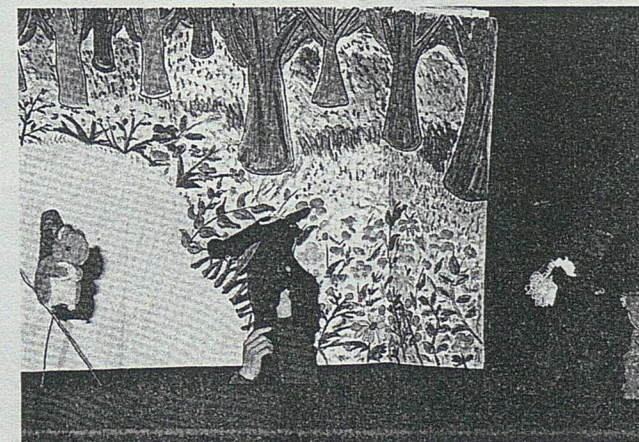
「第12回玉造町公民館まつり」が1月29日
から1月31日まで開かれました。開催期間中
公民館教室受講生の作品展示や発表会が行わ
れ、なかでも女優の藤田弓子さんを迎えての
特別講演会は大勢の皆さんが集まりました。



一階のロ
ビーでは
「茶会」が



お孫さんの作品をジューッと…(小・中書道展)



「赤ずきんちゃん」と、地元に伝わる「唐ヶ崎長者」
伝説の人形劇でがんばった「高校生会」

わかさぎの人工授精

霞ヶ浦漁連では、1月23日に八木蒔地先の舟溜で地元の漁民の皆さんの協力により、わかさぎの人工授精を行いました。

年々少なくなっている霞ヶ浦のわかさぎを増やそうと、計画的に行っているもので、早朝沖から捕獲した成魚をオスとメスに分別。メスから採取した卵にオスの精子をかけ、しゅろの毛で作った床に付着。3月下旬頃には卵がふ化し稚魚の誕生となります。



六位 玉川ブルーナインB (1時間1分49秒)	ナインA
◎区間賞	▼スポーツ少年団女子の部
一区 井能和則(現原サッカ ーA)	一位 現原女子複合A
二位 栗野正義(玉造山王野 球A)	(1時間48秒)
三位 達樹(玉川ブルー ナインA)	二位 玉川ミニバスケットA
四位 石川博之(玉川ブルー ナインA)	(1時間1分42秒)
五位 樽見博朗(現原サッカ ーA)	三位 玉造山王ミニバスケッ トA
六位 堀 悟志(玉造山王サ ッカーA)	(1時間4分59秒)
七区 斎藤茂樹(玉川ブルー ナインA)	四位 現原女子複合B
	(1時間5分18秒)
	五位 玉川ミニバスケットB
	(1時間5分32秒)
	六位 手賀ミニバスケットA
	(1時間6分14秒)
◎区間賞	一区 藤崎紀子(現原女子複 合A)
	二位 鈴木千明(玉川ミニバ スケットA)
	三位 大曾根宏美(現原女子 複合A)
	四位 生井沢舞美(現原女子 複合B)
	五位 笹目寿恵(現原女子複 合A)
	六区 栗又美奈子(玉川ミニ バスケットA)
	七区 井能裕美(現原女子複 合A)

スケートというと、昨年のオリンピックのメダリスト伊藤みどりさんのフィギュア・スケートの華麗な演技を思い出す方もいるでしょう。また、田んぼの氷の上で、げたスケートで滑った遠い日を思い起こす方もいるかもしれま
せん。

スケート

ウマ、トナカイなどの骨で作ったものが見つかっています。スケート靴が日本に伝わったのは明治十年で、札幌農学校のアメリカ人教師が持ってきたとされています。その後、長野県の諏訪湖などにスケート場ができました。最近では冷凍機械の出現で、通年リンクが各地にできたので、スケートは冬に限ったスポーツではなくなり、夏でも、屋外リンクでのスケートは、冬の風物詩です。



スケートは、もともと氷の上の交通手段で、大昔は動物の骨を削って靴にくくりつけたものだったようです。北欧などの穴居跡には、ヒツジや

第10回町民駅伝大会

優勝は、

芹 沢 区(区対抗の部)

玉 川ブルーナインA(スポ少男子の部)

現原女子複合A(スポ少女子の部)

「第十回玉造町民駅伝大会」が二月七日に、泉の総合運動場周辺の周回コース(十四キ

ロメートル)で行われました。区対抗は一チーム八人で編成で、二区と三区が半周一キロメートルで他は一週二キロメートル。スポーツ少年団の部は一チーム七人で、すべて一周二キロメートル。区対抗の部には七チームが、スポーツ少年団の部には四十五チームがそれぞれ参加。区対抗の部では芹沢区が、スポーツ少年団では男子が玉川ブルーナインA、女子が現原女子複合Aがそれぞれ優勝しました。



『霞ヶ浦ふれあいランド』をPR

～インストラクターの加藤さん～



「いばらき春の観光キャンペーン」が1月26日に東京駅構内動輪広場で行われ、霞ヶ浦ふれあいランドインストラクターの加藤恵美子さんがピーアールに一役買いました。

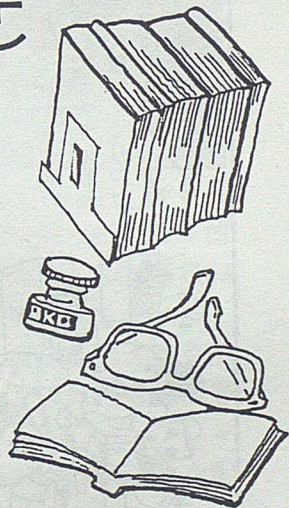
茨城県の観光地や施設を宣伝し観光客を呼びこもうと毎年行われており、県内各施設等のキャンペーンガールの皆さんが、パンフレットと、バラとウメの一輪(ノベルティ)を配りました。

結果は次のとおりです。 (敬称略)	▼区対抗の部
一位 芹沢区 (56分14秒)	二位 小座山区 (58分39秒)
三位 上山区 (1時間3秒)	四位 浜区 (1時間2分11秒)
五位 舟津区A (1時間3分48秒)	六位 西蓮寺区 (1時間3分54秒)
◎区間賞	一区 中島美津子(上山区)
二位 風間修子(上山区)	三位 菅谷淳子(芹沢区)
四位 若泉秀治(芹沢区)	五位 玉造山王野球A (1時間1分26秒)
▼スポーツ少年団男子の部	一位 玉川ブルーナインA (55分44秒)
二位 現原サッカ一A (56分12秒)	三位 玉造山王サッカ一A (59分25秒)
四位 玉造西剣道A (1時間9秒)	五位 玉造山王野球A (1時間1分26秒)
五位 堀田秀明(小座山区)	六位 小沼博志(芹沢区)
七区 野原亮一(小座山区)	八区 白鳥昇(上山区)

その1

読書感想文 …… 図書館主催

町長賞に高塚智子さん（手賀小五年）



町立図書館主催による「平成四年度読書感想文コンクール」で、町長賞に手賀小学校五年生の高塚智子さんの作品「ふんわり太平洋」を読んだで選ばれました。

冬休みを利用して行われた読書感想文コンクールには町内の小中学校から一千百三十三点の作品が寄せられ、審査の結果二十人が入賞に選ばれました。

表彰式は一月二十九日に町立図書館で行われ、審査にあたった玉造西小学校の成井京子先生は次のように講評を述べました。

「審査の基準は①喜び、楽しみが感じとれるか②自分の意見や考えが書かれてあるか③自分の言葉で述べてあるか④読書によって自己の変革が

みられるか——の四点です。町長賞の高塚智子さんの作品は戦争の恐ろしさをおじいさんの体験とからませて述べていて、外へ目を向けている。読書によって自己の変革がなされた素晴らしい感想文で特に書き出しの文は読む者を引きつける。議長賞の兼平佑美さんの作品は、人のいたみや思いやりが感じられ自分の考えを素直に書いてあり好感が持てた。全体的には文学作品からの感想文が多かったなかで、教育長賞を受けた引地雄司君の作品は、たった三行の詩から、色について自分の想像を働かせて考えを述べていてよい作品となっていた。」

入賞作品のなかから、町長賞、議長賞、教育長賞に選ばれた六点を紹介します。

読書感想文コンクール入賞者名簿

賞名	氏名	学校名	学年	題名
町長賞	高塚智子	手賀小	5	「ふんわり太平洋」を読んで
町議会議長賞	兼平佑美	玉造中	2	「ビルマの竖琴」を読んで
教育長賞	有馬宏信	現原小	2	「野口英世」を読んで
同	菊地沙織	玉造小	1	「おかあさんのサイン」をよんで
同	荻沼禎彰	玉造小	3	「チャーリーブラウンなぜなんだい」を読んで
同	引地雄司	玉造中	3	「色」について
教育部長賞	田中薫	現原小	6	「ミッドナイトステーション」を読んで
同	高野幸子	玉川小	1	「ゆかいなばけくらべ」をよんで
同	平間朋恵	玉造中	1	「友情は海をこえて」を読んで
図書館長賞	政所麻結子	羽生小	5	「ビルマの竖琴」を読んで
同	柴田浩彰	玉造小	2	「ちょっとかわったパン屋さん」よんで
同	田中延枝	玉造中	3	「火垂るの墓」を読んで
佳作	勢子由香里	羽生小	5	「ゴミから地球を考える」を読んで
同	貝塚祐子	玉造西小	3	「ともだちばんざい」をよんで
同	加固利照	玉造西小	6	「守るみんなの尾瀬を」を読んで
同	高野哲史	玉川小	2	「走れブルートレインアパート号」をよんで
同	平野智志	玉造小	4	「行け名警察犬アルフ号」を読んで
同	森田鮎美	手賀小	2	「ペンギンたんけんたい」をよんで
同	小沼善博	玉造中	1	「羅生門」を読んで
同	小貫美奈	玉造中	2	二人の友情から学んだこと

町長賞

「ふんわり太平洋」を読んで

手賀小五年 高塚智子

風船。大空に昇って行く色とりどりの風船は、平和のシンボルのように思われる。しかし、その風船が戦争に使われていたとは。

私の祖父は、十四才の時、日立の工場へ学校から行かされたということだ。その工場での祖父の仕事は、ブランキングという部品の仕上げをすることだったと言う。昭和二十年八月二十日に終戦になるが、その日は一か月前の七月十九日、祖父の工場はアメリカの空襲で、かんぼうしやけきをつけたという。ひなんすきをうけたという。ひなんすきをよくききうけて飛ばされてしまつてどこへ行くか分からなくなつてしまひ、気が付いてひなん所へ着くと、人々が友達を呼ぶさけびでいっぱいだったそう。どんな様子だったか、私には想像できない。次の日は、十九日のばけきで亡くなった人の肉を集めてうめたそう。中学校二年生に、よくそんなことができた

と思う。きつと私にはできないと思つた。

タミ子も私の祖父と同じような経験をしていた。戦争のために、両親とはなれ、風船ばくだんを作つたのだ。

タミ子の作つていた風船ばくだん。これはどこへ飛んでいくか分からない。海に落ちてしまふかもしれない。アメリカにとどかないかもしれない。空に上げて、もどつて来てもしょうかもしれない。こんな武器を作つても何もならないだろう。日本はなんてバカげたことをしていったんだろう。こうして勝つしかなかった日本がおろかに思える。

そこまですて、戦争をやめたかったのはなぜだろうか。それは、日本という国は、海に周りを全部囲まれた国であり、とても小さな国だ。そのため、大陸にも領土を広げたい。それが原因で始められた戦争だ。領土をとるまでは、やめられなかったのだ

海に囲まれていても別にいいではないか。土地がせまくてもいいではないか。

一部の人の命がうばわれた。もし戦争に勝つたとしても、亡くなった人が生きかえるわけではない。負けた国も、勝つた国も、人が死んでしまつては、何もならない。

今の地球上にも、戦争や、アジアやアフリカの国での国内の争いがたえない。西暦二千年はもうそこまで来ているのだから、できるだけ早く解決して戦争などない世界を作つていかなければならない。

私たちは、まだ小学生だが、これからの世界の歴史を築きあげていくのが役目だ。タミ子や私の祖父のような思いをした人を、二度とつくりたくないにすることや、私たちが大人になつてからも、戦争のおそろしさを、子供たちに伝えていくことが、これから大人になつていく私たちの大切な役目ではないだろうか。

風船は、やはり平和のシンボルでいいのだ。

議長賞

「ビルマの堅琴」を読んで

玉造中二年 兼 平 佑 美

「ビルマと日本ではどちらが発展していますか。そう問われたら私は「日本です。自信を持ってそう答えるでしょう。しかしこの本を読んで（本当にそうだろうか）と考えさせられました。今まで発展というのは、科学・技術の面だけに使われる言葉だと思っていました。けれどそれは違います。この本は私にはつきり、そのことを教えてくれました。

自分が良ければ他人のことはどうでも良い、という考えは日本に結構あるでしょう。私もそんなことを考えることがあります。けれどビルマの人々はそんな考え方をしません。この違いから、ビルマの人々の方が「心の発展」をしていると思います。日本の様に、科学などの発展と共に

人々の心が冷たくなると思うと、すごく悲しい気持ちになります。けれどこの話の主人公、水島上等兵は違います。素晴らしい知恵・勇気・そして優しい心。彼は隊の人気者であり、信頼感のある立派な兵でした。なのに戦争は水島兵を友から奪い取りました。だから戦争は悲しいものだと改めて感じました。戦争はただ人々を傷つけ、人々を暗い世界へ落とし入れただけなのではないでしょうか。水島兵はそれを知っていたのだと思います。だからこそ、自分を犠牲にしてまで日本兵の降参を望んだのでしょうか。その勇気はとても素晴らしいと思います。そして自分の夢を捨て

てまで戦死した日本兵の骨を拾うことに、強く心を打たれました。私には彼がどれだけ日本へ帰らなかったか、どれだけ戦友達と、新しい日本を築いていきたかったか分かるような気がします。しかしそれをがまんして帰国していく日本兵を見送った時の気持ちはどんなにつらく、悲しいものだったでしょうか。そんなことを考えると、今こうして幸せに何の苦勞を知らずに生きていく私が、とてもはずかしく、また、とても申しわけなく思えます。

私だったらこんなにつらい思いをしてまで、一人ビルマに残り、日本兵の骨を拾い集めることなんて出来ません。けれど水島兵は自分に「ビルマに残らなくてはいけない」ということを言い聞かせ、必死に悲しみをこらえているように、それがなんとも無惨に思えて、涙が出てきました。作者は、戦争の犠牲者、そして自分の幸せを犠牲にした水島兵を描き、戦争の恐ろしさや愛情の大切さを私に教えてくれました。だから私も人の心の痛みが分かる人間になりたいです。それに、日本が科学や技術の面だけでなく、「心」という面でも発展した国になれば良いと思います。

教育長賞

「野口英世」を読んで

現原小二年 ありまひろのぶ

英世は、自分がこまっていたとき人にたすけられたから、できただけ。英世は、夜もろく寝ない

で、けんきゅう、けんきゅうのすえ、黄ねつびょうというでんせんびょうにかかって苦しんでいる人をたすけるために、アフリカまでいき、けつきよくそこで、自分自しんがでんせんびょうにかかってしまい、五十一才でしんでしま

ったんだね。ぼくは、英世の小さいころからのどりと心の強さにおどろかされたよ。苦しんでいる人のためにつくした英世は、とてもりっぱな人だね。いつも何かに向かって一生けんめいがんばっている英世の

すがたが強く心にのこるよ。だけど、英世のおかあさんもりっぱな人なんだと思うよ。英世が二才の時に、いろいろにおちて大やけどをしてしまいゆびがくっついてぼうのようになっちゃって、みんなにばかにされ、いじめられるよ

うになった時、きつとおかあさんは心の中でないていたにちがいないと思ったよ。でも「びんぼうだって、そんな手をしていたって、まけたらいいかん。それより自分の一番すきなことを、力いっぱいやるんじや、一番すきなことをな」とはげましてくれたんだね。そのはげましのことは、英世は勉強ががんばれるようになったんだね。英世はおかあ

さんの苦しみを分かっていたから、おかあさんに心ばいをかけたくなくて、勉強をがんばるようになったんだね。ぼくだったら、おかあさんにもんくを言ってすねてしまおうと思うよ。そして、もつとおかあさんをこまらせてしまおうな。でも、英世はかせみたいにばくもなりたいたから、おかあさんをこまらせるようなことは言わないようにした

いと思うよ。おかあさんだつてつらいのをがまんして、ぼくをいい子にしたいために、いろんなちゅういをするのだと思うから。こうとう小学校を一番のせいせきでそつぎようした英世は、ぼくとちがつてあたまがとてもしんないんだね。ぼくはただ八才だけど、このさきどれだけががんばれるかな。ぼくはいまでもけんこうでふじゅ

うなことは何もないからしあわせだけど、ぼくもちよつとがまんしていた時があつたんだ。それは少しの間だけど、おとうさんとあなれてくられていたんだ。そのときはとてもさみしかったよ。でもいまはいつしよにすめるようになったからとてもうれしかったよ。家に帰るのが楽しくなったよ。このごろテレビのニュースなどで、いじめられて苦しん

教育長賞

「おかあさんのサイン」をよんで

たまつくり小一年 きくち さおり

わたしは、はじめてこのだいをみて、いったいどういうおはなしなんだろう、おもしろいおはなしかなあ、とおもったよ。

本をよんでいくと、「ちからくん」という男の子のおはなしだ、ということがわかったよ。しかも、この子は、わすれもののめいじんなんだ。わたしも、がつこうにわすれものをしたことがあるからわかるよ。わすれものをすると、なんかドキッとして、いやなきもちになるね。この「

ちからくん」もきつとそういうきもちだったんだろう。でも、あれあれ、この子はちよつとちがうみたい。わすれものをしてもへいきで、いつもとなりのななこちゃんに見せてもらっているもの。ななこちゃん、めいわくそうだね。だって、わすれものはしょつちゅうだし、おまけに「ちからくん」はくさいんだもの。

そこで、せん生が、れんらくしようにかいて、「おかあさん」のサインをもらってきつね。ちからくん、もきつとそういうきもちだったんだろう。でも、あれあれ、この子はちよつとちがうみたい。わすれものをしてもへいきで、いつもとなりのななこちゃんに見せてもらっているもの。ななこちゃん、めいわくそうだね。だって、わすれものはしょつちゅうだし、おまけに「ちからくん」はくさいんだもの。

ちからくん、もきつとそういうきもちだったんだろう。でも、あれあれ、この子はちよつとちがうみたい。わすれものをしてもへいきで、いつもとなりのななこちゃんに見せてもらっているもの。ななこちゃん、めいわくそうだね。だって、わすれものはしょつちゅうだし、おまけに「ちからくん」はくさいんだもの。

教育長賞

「チャーリーブラウンなぜなんだい」 を読んで

玉造小三年 荻沼 慎彰

ぼくは、「チャーリーブラウンなぜなんだい」と言う本を読んで、この世の中には、ジャニスの様に重い病気になるって苦しんでいる人がたくさんいる事を知り、とてもかなしく感じました。

ジャニスは、重い病気にかかりました。病名は、「白血



病。白血病とは、血えきのがんで、今の医学ではなかなか治らないおそろしい病気なのです。ぼくは初め、「がん」と言う病気がどんなものか知らなかったの、どこでジャニスはうつって来たのかと思

いじめっ子たちに勇かに立ち向って行ったのです。ジャニスにとっては、つらくかない出来ごとだったと思ひます。どうして自分ばかりかなしいめに会ったのかと不思議に思ひます。そんな時ライナスのような、心のやさしい友だちにささえられたことは、ジャニスにとって力強い心のけがましになったことと思ひます。ライナスとともに、「がんばれ、ジャニス。」と心の中でよくもいっしょになつて応えんしました。

ぼくの友だちにも長い間入院して学校を休んでいる友だちがいました。夏休みに足をけがして、遠くの病院で手術すると言うのを先生から聞いた

で、びつくりしました。近くの病院ならお見まいも行けるけれど、遠くなのでそうかんたんには行けません。遠くでたった一人で入院している友だちがかわいそうでした。勉強はだいじょうぶかな、足はいたくないのかなと考えてしまふのです。ぼくは、「たい院して、もし分らないことがあったら、いっしょに勉強しようね。」と、手紙に書きま

した。友だちは十二月に元気にたい院して来ました。ぼくはこの本を読んで、ライナスの様な心のやさしい思いやりのある人になり、友だちの心のささえになれたらいいなと思ひました。

教育長賞

「色」について

玉造中三年 引地 雄司

世界の、色は、

黒だ。僕は、この「色」という詩

を読んだとき、「いったい何を言っているのだろう。」と思ひました。たつた七文字だけで、世界のことが書かれています。この作者は、なぜ「世界の色は黒だ。」と思つたのだろう。僕はそれが、

一番気になりました。この詩は、本屋さんと読んだので、家に帰ってからもう一度、なぜ世界の色が黒なんだろうと考へ直してみました。僕がこの詩を読んだときの印象は、悪いことという事でした。

そこで、僕は、他のことにも色をあてはめて考へてみました。例えば、赤なら、人との殺しあひの血の色。青は空のすがすがしさ。黄色は実り。緑は自然。茶は大地の色。こういうふう、世界に

あるものを色で表現してみました。

しかし、これらの色を全部混ぜ合わせると黒になります。作者もこの事が言いたかつたのではないだろうか。しかし僕はすぐ違ふと思ひました。

でも確かなことではないので、もう一度世の中を見渡し、みることにしました。まず毎日の新聞を見ると、良いことはあまりのつていません。ところが、悪いことは、連日

ないかと思へるようになってしまふ。どうすればなるのでしょうか。僕なら、悪いことに対しての仲間が作れないような状態を工夫し、また、日本だけでなく、世界中にその輪を広げていくようにしたいと思ひます。きっとこのようない芽を摘みきれないと思ひますが、世界の色がもっと明るい色になるように努力していくことは全人類の課題だ。

最後に、この詩はこんなに短かいが、なぜもつと長く書かなかつたのかと思ひました。でも、よく考へてみると、この詩を他の人が書いたとする、きつと長く、でれ一つと書いてしまふでしょう。そのことを想像してみると、この詩は、短かいからこそ内容が濃く、たくさん考へて考へさせられるので、こんなにもぐんぐんと引きつけられていくのだと思ひます。

僕は、このさっぱりした書き方が好きになりました。この詩の作者は、川岳美俊という人です。このような詩をどどん見つけて、読んでいきたいと思ひます。



その2

文化財保護推進ポスター

町長賞に滝 愛美さん(玉造中一年)

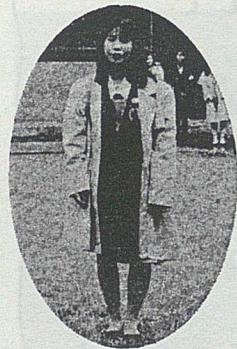
「ふるさとの貴重な文化財をみつめよう」と、町の文化財顕彰会と教育委員会主催による「第二回文化財保護推進ポスターコンクール」が行われ、審査の結果玉造中学校一年生の滝愛美さんの作品が町長賞に選ばれました。

コンクールは、玉造町にあるすばらしい文化財を守り、郷土の歴史や文化を理解してもらうと昨年から行われ、作品

内の中小学校から百五十一名の応募がありました。一月二十九日に町立図書館で行われた表彰式で、コンクールの審査にあつた行方郡教育会美術研究部長の羽生明義先生は、「どのように描いたものがいいのか審査にちょっと迷いましたが、基準は①町の文化財をよく見ているか②色と形の組み合わせがうまくいっているか——で、作品

★文化財保護推進ポスター入賞者★

賞名	氏名	学校・学年
町長賞	滝 愛美	玉造中 1年
議長賞	平 野智志	玉造小 4年
教育長賞	吉 田 めぐみ	玉造小 5年
文化財顕彰会長賞	内 藤 恭子	羽生小 6年
	坂 本 依子	西小 5年
教育部会長賞	飯 田 晃弘	原小 3年
	堀 池 元基	小 3年
佳作	中 野 桂子	羽生小 6年
	川 島 裕友	西小 1年
	小 沼 真由	小 2年
	根 本 美恵	小 3年
	成 島 久美子	小 4年



「青年の船に 参加して…」

仁 平 美佐江

「夢船路、明日への挑戦」をテーマのもとに10月29日から11月8日までの11日間に渡っての本研修に参加しました。その間3回もの事前研修を経て不安と希望の中出航式に望み「ふじ丸」へと乗船しました。船内での全日程としてパーティー、船内班別活動、洋上祭、係活動、講座、クラブ活動、現地班活動、運動会などが組み込まれました。その中で私が印象に残ったのがブロック別洋上祭でした。県内五ブロックに別れそれぞれの劇を発表しました。私は鹿行ブロックとして参加し活動しました。一人一人案を出し合いながら進めて行く為に何回もの集りを行ったせいか、まとまりが有りその結果優勝することができ、また新たな友情が芽ばえました。

そして中国視察日程として北京市では、水上公園、故宮博物院、天安門広場、人民大会堂、万里の長城、明の十三陵、友誼商店など天津市として古文化街、絨毯工場、スポーツ交流会とハードスケジュールの中訪問しました。その中で私が心を打たれたのが天津市の河西体育館で行われた、スポーツ交流会でした。地元の小学生千人以上が見守る中、中国語で「あの素晴らしい愛をもう一度」を歌い次にフォークダンスを踊り始めました。次第に地元の青年や小学生もダンスの輪に加わり、やがてその輪が体育館いっぱいに広がりました。

接することで体で互いに気持ちを通じ合い感動と経験をくれた中国青年小学生に感謝したいです。

今回青年の船という事業を通して同じ県内に住む多くの世代の人と接し、多くの人達と人間関係を築くことが出来ました。中国青年との交流会において仲間意識が高まり友情が芽ばえました。この気持ちを忘れずにこれから地域課題を見いだし実践活動へと行動して行きたいです。

アメリカ・メキシコの 教育事情を視察して

玉川小教諭 海 東 千 里

このたび、文部省教員海外派遣（短期）茨城県第82団として、アメリカ、メキシコ方面へ平成4年10月12日～27日の16日間派遣され、無事帰国しました。

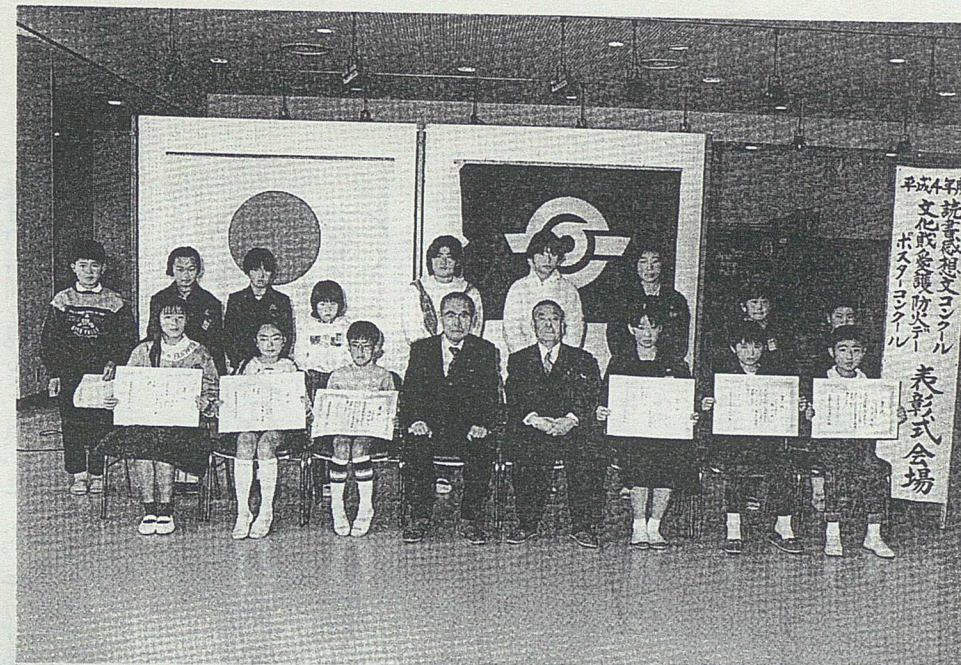
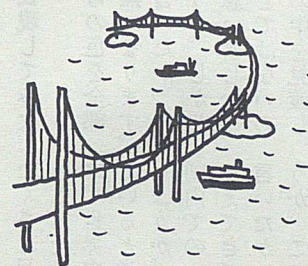
まず、メキシコについてですが、オートバイ（450cc）2台に乗った警察官2名による先導のもとに学校訪問へと向いました。物質的には恵まれてはいないのですが、子ども達の目は、すばらしく輝いていたのが印象的でした。先生方は、日本のような経済の気迫をめざして、教育の重要性を意識しての様子が授業を通して、また、質問事項などにも強烈に感じられました。工業系の学校を中心に視察してきましたが、あと数年で、日本の経済に追いつくのではないかとされる熱心さを感じられました。この意欲は、日本の先生方も、勉強させられました。そして、子ども達の目の輝きも、このような先生方の姿勢から生まれてくるのであらうと思われました。

また、アメリカについては、小人数で、設備も行き届いており、生れた時から、教育が親子ともにされ、その親の子として育てられるだけでなく、国家の子どもとして、個人を大切にしながら、教育されていく様子を視察してきました。子ども達も、先生方も、伸び伸びとした、個性の発揮ができる様子を見ることができ、これからの日本での新教育課程実施に向けて、大変参考になる場面がたくさんありました。特に、幼児教育については、学ぶところがたくさんあるように思えます。

この16日間の海外教育事情の視察を通して日本で失われかけているいろいろの点をメキシコで学び、これから学ばなければならないことを多く、アメリカに見つけることができたような気がしました。今後、日本での教育に生かすつもりです。



左端が海東さん



表彰された皆さん

玉造町では、平成元年度から「地域づくり人材育成事業」として海外派遣研修生に補助をしています。昨年の十月から十一月にかけて、「文部省教員海外派遣」と「茨城県青年の船」研修に、町から八人が参加しました。文部省教員派遣には玉川小学校教育の海東千里さんがアメリカ・メキシコ方面へ。茨

城県青年の船には理崎鉄雄さん、仁平美佐江さん、塙達也さん、根崎康成さん、斎藤義嗣さん、奥田稔さん、島田清美さんの七人が中国（天津・北京）へ、それぞれ研修生として派遣されました。皆さんの体験レポートが届きましたので紹介します。「地域づくり人材育成事業」は、町が魅力ある地域づくりを目指すための人材を育成しようと平成元年度から始まった事業。研修などで海外等へ派遣される方に、団体等の推薦があれば、その費用の二分の一以内（三十万円を限度）を町で補助しています。平成四年度は、二月一日現在で十四人が研修生として補助を受けました。

玉造町地域づくり人材育成事業 平成四年度は14人が研修生として派遣



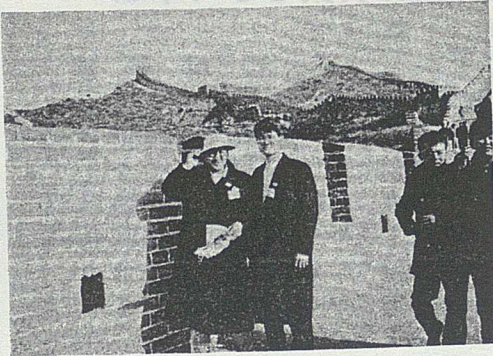
町長賞を受けた滝愛美さんの作品



議長賞の平野智志くんの作品



教育長賞の吉田めぐみさんの作品



青年の船に参加して

理 崎 鉄 雄

日本国交正常化20周年記念という事もあり今回の青年の船は、今までで一番参加者が多く活気のあるものになりとても有意義な体験ができました。

船内の研修は、船酔いなどもあり、レポートなどを書くのがつらかったです。とくに帰りは、台風などもあり、2日間寝ていたのもそれが残念でした。しかし、ブロック別洋上祭で、鹿行が一位になった事は、とてもよかったと思います。おかげで、鹿行のメンバーは、どこにいても大騒ぎで目立っていました。

さて、中国現地ですが、まず水上公園で、うわさに聞いていたトイレを見ました。使った人もいたようでしたが、私だったらがまんすでしょう。そして古宮博物院、敷石が縦横に何層にも敷きつめてあり、敵の侵入をふせぐためと聞き、すごいと思いました。あと天安門広場では、三年前の事件が嘘のように、たくさんの人が歩いていました。万里の長城では、その大きさに驚き、寒さにまいりました。最後のスポーツ交流会では、日本からもちこんだ御神輿を披露、その統一された動き、威勢のよさに中国の人々は驚いているようでした。そして、その威勢いのままフォークダンスを踊り、一体となって盛り上がりました。

最後に、スケジュールなどもきつくいろんなハプニングもありましたが、苦しくも楽しい青年の船が体験でき、とてもよかったです。

茨城県青年の船事業に参加して

斎 藤 義 嗣

三年に一回行われる茨城県青年の船事業に育成者として若い人達と共に日中国交正常化20周年の大変お芽出度い節目の昨年、然も天皇・皇后両陛下が訪中されてお戻りになられた翌日11月29日に鹿島港を旅立ち往復11日間1名の落伍者もなく訪中させて頂いたことは、生涯にわたる若い人達も我々年配者も大きな見聞・見識を広めさせて頂いたことに感謝して居ります。

出発前の3回にわたる事前研修会で感じたことは、今私達が抱えている青少年の非行化問題で話題を賑わしている人達とは全く違った素晴らしい青年男女が茨城県にこんなに大勢居られたのかという大きな驚きでした。この事業の立案計画実行の段階まで各自各自の職業を超越して仕事が終わったあと水戸市にある青少年会館に集まり、それこそ夜を徹しての苦労をいとわず万全の実施段階まで漕ぎつけ然も船中において、又中国においても11日間の心労は傍で見ていて、それこそ深い感動をおぼえたのでした。私達は何かにつけて「今の若い者は」という言葉を使っているのをよく言いもし、聞いて来ましたが、今回の青年の船に同乗し、そして共に生活を通し行事を通して、県内全域から集まったこの人達に明日の茨城をそして玉造を託して絶対に心配は無いと確信を致しました。玉造町から参加した若い6名の人達も然りであります。

茨城県の主催で5回も特に本年は過去4回に例を見ない461名という人々が同じ運命共同体として客船ふじ丸(約2万4千トン)で寝食を共にし、中国での各種交流会でも20年も30年も昔から知り合っていたかのように心が溶け合い、実に素晴らしいハーモニを醸し出すことが出来ました。これまた執行部の方々の経験とアイデアが生かされたことを痛感しました。

茨城県青年の船に参加して

島 田 清 美



この茨城県青年の船は、本研修が、10月29日から11月8日までの11日間でおこなわれました。

目的として、(1)仲間意識の高揚と視野の拡大。(2)地域振興にむけての青年活動の意義と役割。(3)青年としての国際交流の、三分野があげられ、(1)においては、第一回から第三回までの事前研修があり、何回か顔をあわせている為、本研修では、仲間との深い友情や信頼もうまれ、また先輩がたとの交流で、今までの自分の考えも、少しずつ変わっていくのが良く分かりました。

国際交流で、私達が行った事の一つに、人民大会堂での交流会があります。日本でいう国会議事堂なのですが、私達はその中で会食し中国の人達とのふれあいがあったのです。

また、天津青年とのスポーツ交流会もありました。

スポーツ種目は、バレーボール、綱引き、神輿、フォークダンス等で、フォークダンスは、小学生から大人までの中国の人々との交流があり、感激してしまったほどです。

この茨城県青年の船で、学んだ事は、数多くあり、それを地域で役立てる事はもちろんの事、まず茨城県の将来を魅力あるものに創造して行くことが、私達青年にとっての役割だと思います。

私としては、一人でやりとげられるものから、多くの仲間の力を結集した青年団体活動へと、未来のために行動して行きたいと思います。

中国を訪れて

奥 田 稔

平成4年10月29日午前10時、私達青年の船一行は、期待と不安の中、多くの見送りの人々に見守られ鹿島港を出航、一路中国へ向かった。11月8日まで計11日間の日程。その内船上生活が約7日間。何事もスピード化されていく現代に於て、贅沢な旅である。もっとも日程の時間割りはかなり密ではあったが。

さて、この茨城県青年の船は、(1)仲間意識の高揚と視野の拡大、(2)地域振興に向けての青年活動の意義と役割、(3)青年としての国際交流、の三分野を目的として実施されたものである。これらの感想を述べてみよう。

(1)船内では、組・班・係・各地区別ブロック、中国では現地班と、絶えず周辺に誰かが居り、皆共通の目的を持つので連帯感が高まる。特に我が鹿行ブロックは洋上祭(持ち時間10分で何をしても良い)に於て、環境問題(水)について劇を演じ6ブロック中優勝する事が出来た。連帯意識の賜物である。故に多くの友を得られた。また、中国という大国を訪れてその文化に触れ、歴史や過去の史跡ばかりではなく、現代の資本主義の風を受けた中国を理解する事が大切なのだと感じた。

(2)今、避けて通れない問題として、水の汚染、がある。洋上祭の準備に際し、多くの事を学んだ。これを機会に何か行動を起こそうという気運が船の中で高まったのは喜ばしい限りである。一人一人のモラルの向上、持にこれからの社会の担い手である青年が率先してゆかねばならない。

(3)自国の文化に拘らずに、その国の人と同じ物を食べ、同じ所に寝て、どんな人であろうと気さくに話せるバイタリティーが必要だと、スリランカ人のダンミカ氏は船中の講座で話された。言葉は話せなくとも互いに理解し合う努力をするのが、国際人である。

どうも日本人は外国が苦手の様である。考えてみれば中国人と話す機会があったわけだが、ほとんどしていない。また機会があれば国際人として「ゆっく」訪れてみたい。



実行委員として乗船

根 崎 康 成

今回の青年の船は二度目で実行委員の一人として乗船致しました。

前回の青年の船は、天安門事件等あり、不安もかかえての研修でしたが、今回は事件等も気になる事もなく出航出来た事を喜ばしく思います。研修中はやはり日程的な事由で厳しかったかと思いますが、みんなが、自分に出来る事、しなければならぬ事等色々な事が気付いてもらえたならば今回の「青年の船」は成功だったと言えます。

最後に三年に一度のこの船は、青年達が、自分の為に創造し実行するものです。青年の参加が多いほど、自分をみつめ直し、違った何かを見つけられるはずで。みなさんも、青年の船に乗って見て下さい。きっと何かを得られるはずで。

青年の船に参加して

塙 達 也

長いようで短かった11日間があつという間に過ぎました。申し込んでから出航までの間3ヶ月という間に様々な問題をクリアし、研修に参加しました。

この研修の中で私は、11日間かけて自分を見つめ直す事が出来ました。多くの人と語り合い、飲み明かしその中で多くの友人が出来、多くの物を得る事が出来ました。

又、中国の現地研修では、三年前話題になった天安門広場、世界最大の建造物である万里の長城の壮大なスケールの大きさには、ただただ圧倒されました。

天津や北京市街を視察して日本はすごく恵まれた国だという事を実感しました。日本では何でも手に入りますが、中国の平均月収が約500元(約11,000円位)だそうです。物価の差があるとはいえ日本人が土産を買うのにパッと何万円も使ってしまうその姿(自分もそうだったのですが)が、何かおかしく感じられました。

最後になりましたが今回のテーマ「夢航路・明日への挑戦」という事です。私の夢航路も始まったばかりです。これから先どんな荒波が待ちうけているか分かりませんが、何事にも敗けずに挑戦して行きます。

みんなで緑を守り育てよう

「緑の羽根募金」や「緑と水の森林基金」にご協力を

日本の森林面積は国土の何%を占めているかご存じですか。答えは67%。これは先進国の中で、フィンランドに次ぐものです。「まだ未開の土地があるなあ」と思われる方もいるかもしれませんが、実はこの森林がわたしたちの生活を守っているのです。

■生活に潤いを与えてくれる森林

森林は木材をはじめ山菜やキノコなどを産出します。また、水を地中に蓄え、山崩れや風水害を防ぎます。さらに、空気をきれいにし、人々の心をいやしてくれます。日本の国土の67%を占める森林は、このようにわたしたちに住宅資材や水を供給してくれるばかりか、森林浴などを通して生活に潤いを与えてくれるのです。

ところが、日本の森林にも苦しい時代がありました。第2次世界大戦中は自給自足のために、戦後は経済復興のために森林が伐採されたのです。全国いたる所にはげ山が生まれ、荒涼とした国土に変わってしまいました。そこで、昭和25年、国を挙げて国土緑化運動を展開していくことになったのです。その一環として募金活動が取り上げられました。「緑の羽根募金」といい、街頭で寄付を募ったのです。この募金は現在も続いていて、公園や公道の緑化、学校や工場の緑化、「緑の少年団」の緑化活動などに役立てられています。

■次の世代に緑を残していこう

昭和63年度からは、新たに「緑と水の森林基金」が加わりました。これは緑を守り育て、次の世代に豊かな森林を引き継ぐことを目的にしています。平成5年4月までに、200億円を目標に寄付を募っています。地球規模での環境問題がクローズアップされている現在、まずは身近な自然環境を守っていく大切さが問われているのではないのでしょうか。

山に植える苗木は、1本約70円です。100平方メートル当たり、3,000本ずつ植えていきます。これが成長して大木になると、水を山に蓄え風水害を防ぎます。

いまから植える苗木は、次の世代に残していくことになります。現在の緑も、そのように受け継がれてきたものです。

緑は単に国のものというわけではありませんし、山に住む人たちだけのものでもありません。都会に住む人たちはもちろん、生き物すべてが木材や水などさまざまな恩恵を森林から受けています。



文 芸

短 歌

鳥の眼を逃れて赤き烏瓜木の
下影にひとつ陽に映ゆ
鳴りながら西風移る田の面に
こ黒く寒し連を握る人
久 米 妙 子

梢に光る淡きさみどり
鈴 木 節 子
此の子等に教えやうたし若き
日に友と育てし友情の輪を
お神楽の太鼓に心弾ませて背
を押されつつ石段のぼる
菅 谷 富 栄
棒杭に向きをかえつつ魚ねら
ふ五位鷺一羽朝風く湖
笹 目 久 子
雲の影去りし筑波をきわやか
に映して澄みぬ元朝の湖
八 木 操

俚 謡 教 室

(二二六回)

兼題「十・里・怒・誌・初・詣」
酸いも甘いも浮世の味を
知って八十路の春に逢う

幾代
驥け厳しく怒鳴るがババは
顔に似合わぬ子煩悩 竹堂
仰ぐ初空国際空路
知らぬ異国の夢を見る 満喜
一步一步に鼓き甲斐見つけ
越えて行きたい八十路坂
とく女
欲にきりない百とは言わぬ
せめて八十路と初詣で 義一
里の杜へ元朝参り
右も左も顔見知り 才依
孫が十人ばかりにはならぬ

はたく年金お年玉 翠峰
樂は出来ない性分だから
子等へ手搦きの里の餅 有美
三日坊主は己が承知
書ける日だけの生活誌 久子
嫁して十年早くも過ぎて
我が家梶取る主婦となる
下けた厩に記した日誌 藤娘
忘れ防止の頼み綱 せつ子
米の出来より伴に嫁を
授け給えと初詣で とくじ
成田詣での長蛇の列に
参るさい銭頭に当る しず女
百里千里をくじけもせず
共に歩きたいばら路 昭千
冬の休みを待ってた孫は
母の古里汽車に乗る 咲子
仁王たまらず阿吽の怒り
鳩が糞する鼻の先 夢情

里の母には電話で詫びて
今年しや我が家で屠蘇を酌
む 和代
初めましてとしおらしかった
今じゃ我が家の天下さま 美代
一里四方に届けとばかり
飛ばせ不景気初笑い いなほ
悪を忿怒のお不動様は
衆生済度の文化財 訥也
足の運びの遅れも合わせ
六十路夫婦の初詣で 正人
森の鎮守に篝火映えて
初春を呼び込む縁起市 里照
鶏に目覚めて笠間の稲荷
車動かぬ初詣で 勇人
若いお二人うれしい笑顔
初のニュースは日本一よしお
初詣でおみくじを引いて
そとと小枝に結んで 草人

「出産・死亡」欄 を休載します

いままで最後の頁に、毎月出産と死亡の欄を設けておりましたが、一月号から休載いたしました。皆さんには関心の持たれていない欄で、毎号楽しみにされていた方もあったと思います。休載にしたのは、「出産・死亡」欄が個人の「プライバシー」に係わる問題を含んでいるのではないかと考えられるからです。行政広報とプライバシーの係わりは今に始まったことではなく、前々からも指摘されておりました。プライバシー権は「私事をみだりに公開されない権利」と言われており、「出産・死亡」欄は、まさにこの点に係わってきます。村上文男弁護士は雑誌「広報」(一月号)のなかで、「行

(広報子)

長い道のり七年余り
初心貫きゴールイン 草女
孫が供えた正月餅で
家内安全初詣で 茶水
おとこ寿命の七十六を過ぎて
人生もて余す 茂伸
積もる思いを胸三寸に
秘めて拝んだ初日の出 きよ女
愛しお方の初夢さぐる
俚謡がなぞめく年賀状 房子
里の嫁には忙しいだけの
帰省年賀の三ヶ日 青声

おしらせ

お済みですか、

慰労品の請求

戦後強制抑留者の

皆様へ

平和祈念事業特別基金では、戦後、旧ソ連邦またはモンゴル国の地域において強制抑留された方、または、そのご遺族に内閣総理大臣名の慰労品（書状・銀杯）を贈呈しています。

生徒募集

また、これらの方々のうち年金恩給や公務員の共済年金などを受給されていない方には、慰労金（十万円）が支給されます。

▼請求期限 平成五年三月三十一日まで

▼問い合わせ先 平和祈念事業特別基金 業務第二課（〒一一二東京都文京区大塚五三―一三） ☎〇三―三九四五―四七〇三

請求書類は、役場町民課福祉係にも置いてあります。

働きながら高校を卒業／
県立水戸南高等学校
(通信制)

(通信制)

県立土浦産業技術専門学院
(追加募集)

水道のメーターの上には、物を置かないでください

水道のメーターの上に物を置いたり、そばに犬がつかないで、検針の際に検針員さんが大変苦勞します。

メーターの上に物を置いたり、犬をつないでおくことのないよう、皆さんのご協力をお願いします。

生活環境課水道係

農業委員会だより

標準小作料は据置に

田……二万三千円
畑……一万三千円

標準小作料は今回も据置となり田二万三千円、畑一万三千円になりました。

標準小作料は三年ごとに見なおし改訂がされることになっており平成元年度に改定されてから現在まで目安となっ

ていました。

農業の担い手を育てる意味でもまた貸手にも納得されるという意味でも玉造町の実情に合った小作料を設定することが必要です。

小作料設定のひとつの基準となっていた米価も平成四年度は据置となりました。

昨年十二月四日に借り手、貸し手、学識経験者それぞれ五名で構成した小作料協議会をひらき検討協議の決果据置がきまったものです。

これから三年間、農地の賃貸借契約を結ぶときの目安と

区分	標準小作料
田	10a当 23,000円
畑	13,000円
平成5年より玉造全域に適用	

してください。

国民金融公庫の「国の教育ローン」

▼問い合わせ先 前記の選考場所へ

▼提出書類 ①入学願書②調査書③健康診断書(前に実施した試験に応募している者は不要)

▼選考場所 県立土浦産業技術専門学院(土浦市中村西根番外五〇)

▼試験③身体検査

▼選考方法 ①筆記試験(国語I現代文・数学I)②面接

▼受付け及び選考試験 平成五年一月十八日以降随時

○ファッション科………九名

○機械技術科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

○ファッション科………九名

○訓練科及び募集人員

○機械技術科………九名

▼保証 証 助教育資金融資保証基金または保証人

お問い合わせは国民金融公庫土浦支店(☎〇二九八―二二四一四一)へ。

寄

贈

▼善意銀行へ

○%：なめがた農協玉造地区青年部から二二、四五〇円

○%：石岡地区同盟から一〇、〇〇〇円

○%：河原無行さん(養徳寺)から一〇、〇〇〇円